

朝日工業グループレポート 2015



完全復活

ステークホルダーのみなさまへ



このたび、朝日工業株式会社の代表取締役社長に就任いたしました村上政徳でございます。

朝日工業グループは、「地球環境や地域社会への貢献」を大切に、「みなさまから愛される会社」であり続けたいという思いのもと活動しています。限りある資源を有効利用すると同時に、使われていない資源を探索・活用し、不要となったものを再生利用することでゴミを減らし、環境に優しい方法で、安心してお使いいただける製品を生産することにより地域に貢献したいと考えています。鉄スクラップからビルや橋、高速道路に使用される頑丈な鉄筋を作り、家畜糞、鶏の羽、油粕、食品・飲料工場の排水などから安全で良質な有機質肥料を作るなど、資源循環型社会を目指しています。

朝日工業グループは東日本大震災以降、厳しい事業環境に直面し、特に、主要事業である鉄鋼建設資材事業は電気料金を始めとするエネルギーコストの高騰、主要原料である鉄スクラップ価格と製品価格の変動時期のずれによる利益幅の縮小など、かつてない厳しい状況に置かれました。さらに、2014年2月の雪害により製鋼工場が約4ヶ月に亘り操業停止を余儀なくされましたが、グループ全社員一丸となった努力により、2014年度はようやく黒字化を達成しました。業績低迷の時も当社を信頼して支えてくださった株主様、お客様、お取引企業など、すべてのステークホルダーのみなさまに心より感謝申し上げます。

私の使命は、これからもずっと環境に対する姿勢を大切にしながら、時代の変化に対応した変革を実現し、当社がステークホルダーのみなさまにこれまで以上に信頼され、また、従業員がもっと誇りを持てる企業となるようブランドデザインを示し、実行の先頭に立つことです。2015年度は、「完全復活」をみなさまに確認していただける年にしたいと考えています。

ステークホルダーのみなさまにおかれましては、引き続きご支援くださいますようお願い申し上げます。

朝日工業株式会社
代表取締役社長 **村上 政徳**



CONTENTS

- 1 TOP MESSAGE
- 2 企業理念、CONTENTS
- 3 2014年度の業績
- 4 2015年度の見通し
- 5 コーポレート・ガバナンス
- 6 コンプライアンス／リスクマネジメント

事業概要

- 7 鉄鋼建設資材事業
- 9 農業資材事業
(肥料事業、園芸事業、種苗事業、乾牧草事業、海外展開)
- 14 環境ソリューション事業
- 15 砕石砕砂・マテリアルリサイクル事業

環境活動報告

- 16 環境マネジメント／朝日工業の環境活動計画
- 17 第3期中期環境行動計画の実績
- 19 化学物質の適正管理
- 20 マテリアルバランス／第4期中期環境行動計画の概要
- 21 環境会計

財務データ

- 22 財務ハイライト(連結)
- 23 連結貸借対照表
- 24 連結損益計算書／連結包括利益計算書／連結キャッシュフロー
- 25 連結株主資本等変動計算書／セグメント別売上高・セグメント利益

トピックス

- 26 神川農場

社会活動報告

- 27 社会貢献活動

会社情報

- 28 投資家情報
- 29 会社概要／役員紹介／事業所／朝日工業グループ企業情報
- 30 沿革

※この朝日工業グループレポートの内容は2014年度(2014年4月1日～2015年3月31日)の実績に基づいています。(一部、2015年度の活動内容も含みます)

2014年度の業績

連結実績 (百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2014年度	35,494	409	348	549
2013年度	43,591	△ 562	△ 641	△ 11,093

鉄鋼建設資材事業

製鋼工場休止により、鋼材生産数量に制約があったため、販売数量が減少し、第1四半期会計期間で大幅な損失を計上しました。しかし、工場の再稼働以降、業績回復を目指して取り組み、また、前連結会計年度末における減損損失の計上により減価償却費の負担が大幅に軽減されたことから、セグメント利益を確保しました。

営業面では、建設需要を確実に取り込むために、早い段階で物件情報を獲得するなど、積極的な営業活動を展開しましたが、製鋼工場休止の影響を受け、販売数量は前年同期と比べ減少しました。売上高については、販売価格は前年同期と比べ上昇したものの、販売数量の減少による影響が大きく、前年同期と比べ減収となりました。利益については、第1四半期会計期間での大幅な損失計上はありましたが、販売価格の維持に努めた結果、鉄スクラップ価格との値差(メタルスプレッド)が広がり、さらに、エネルギー使用量の削減や生産性向上など、製造コストダウン活動を強力に推進したことから、前年同期と比べ増益となりました。

農業資材事業

肥料事業では、家畜糞などの堆肥を原料とした有機質肥料「エコレット」の販売が拡大しました。しかし、消費税増税前の前倒し出荷の影響が大きく、前年同期と比べ減収減益となりました。

園芸事業では、新規ホームセンターとの取引開始や、既に取引のあるホームセンターへの販売が拡大しました。また、販売エリアの拡大などにより高騰する物流コストの低減対策については、販売ブロック毎に物流拠点を構築し、コストの抑制に取り組みました。

種苗事業では、大玉トマト「アニモ」の改良品種の開発に努めました。また、新商品カボチャ「プリメラ」の普及試作を実施し、2月より販売を開始しました。

乾牧草事業では、販売エリアの拡大に取り組みました。

環境ソリューション事業

放射能分析は堅調に推移しましたが、水質・土壌・大気分析業務が減少したことから、前年同期と比べ減収となりました。しかし、外注費の削減などコストダウンに努めたことから、前年同期と比べ増益となりました。

砕石砕砂・マテリアルリサイクル事業

砕石砕砂事業では、営業努力により販売価格の値上げを実現した結果、販売数量の減少を吸収し、売上高・利益ともに前年同期並みを確保しました。

セグメント別売上高およびセグメント利益 (百万円)

	鉄鋼建設資材事業	農業資材事業	環境ソリューション事業	砕石砕砂・マテリアルリサイクル事業	その他	調整額	合計
売上高	19,860	13,018	642	1,938	151	△ 116	35,494
セグメント利益	65	980	36	151	△ 20	△ 804	409

2015年度の見通し

連結業績予想 (百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	37,400	1,650	1,500	1,400

※2015年5月11日開示の2015年3月期 決算短信にて公表

鉄鋼建設資材事業

営業面では、当社製品の特長(高強度製品・太径製品)を活かした早い段階での物件情報の獲得と、一般鉄筋とねじ節鉄筋の両製品を持つことを武器とした営業活動の強化により、着実に受注を獲得するとともに、適正なメタルスプレッドの確保に努めてまいります。

また、製造面では、歩留まり・生産性の向上はもとより、原材料やエネルギーの使用原単位の低減などのコストダウン活動を進めることで、競争力の強化を図ってまいります。

農業資材事業

肥料事業では、家畜糞などの堆肥を原料とした有機質肥料「エコレット」の販売拡大とともに、今後需要が見込まれる飼料用米向け肥料の販売に注力してまいります。さらに、当社独自の原料開発力を活かし、自社開発原料の使用比率を高め、品質・コスト面での競争力を強化してまいります。

園芸事業では、肥料メーカーとしての豊富な製品ラインナップを活かし、需要を掘り起こせる企画提案を実施し、ホームセンターでの販売拡大を進めてまいります。

種苗事業では、大玉トマト「アニモ」につづく、カボチャ「プリメラ」を主力品種に育ててまいります。また、「アニモ」の改良品種や耐病性の強いキュウリの普及試作を展開し、早期の販売を目指してまいります。

乾牧草事業では、豪州産の新商品「発酵混合粗飼料」の販売を開始するとともに、国内の販売エリアの拡大を図ってまいります。

環境ソリューション事業

従来からの主力業務である水質・土壌・大気分析を拡大してまいります。また、震災復興関連業務として、放射能分析にも取り組んでまいります。さらに、外注費の削減などコストダウンに取り組み、収益基盤を構築してまいります。

砕石砕砂・マテリアルリサイクル事業

砕石砕砂事業では、積極的な営業活動に努め、販売数量の拡大と販売価格の値上げを図ってまいります。また、将来を見据えた砕石区域の開発を進めてまいります。

セグメント別売上高およびセグメント利益予想 (百万円)

	鉄鋼建設資材事業	農業資材事業	環境ソリューション事業	砕石砕砂・マテリアルリサイクル事業	その他	調整額	合計
売上高	20,030	14,760	660	1,900	160	△ 110	37,400
セグメント利益	1,250	990	20	150	0	△ 760	1,650

コーポレート・ガバナンス

「誠実で、公正、公平、誰からも愛される会社であり続けます。」という経営理念のもと、高い水準の企業倫理を維持し、透明性の高い企業経営を進め、合理的判断に基づく効率的経営を行ってまいります。

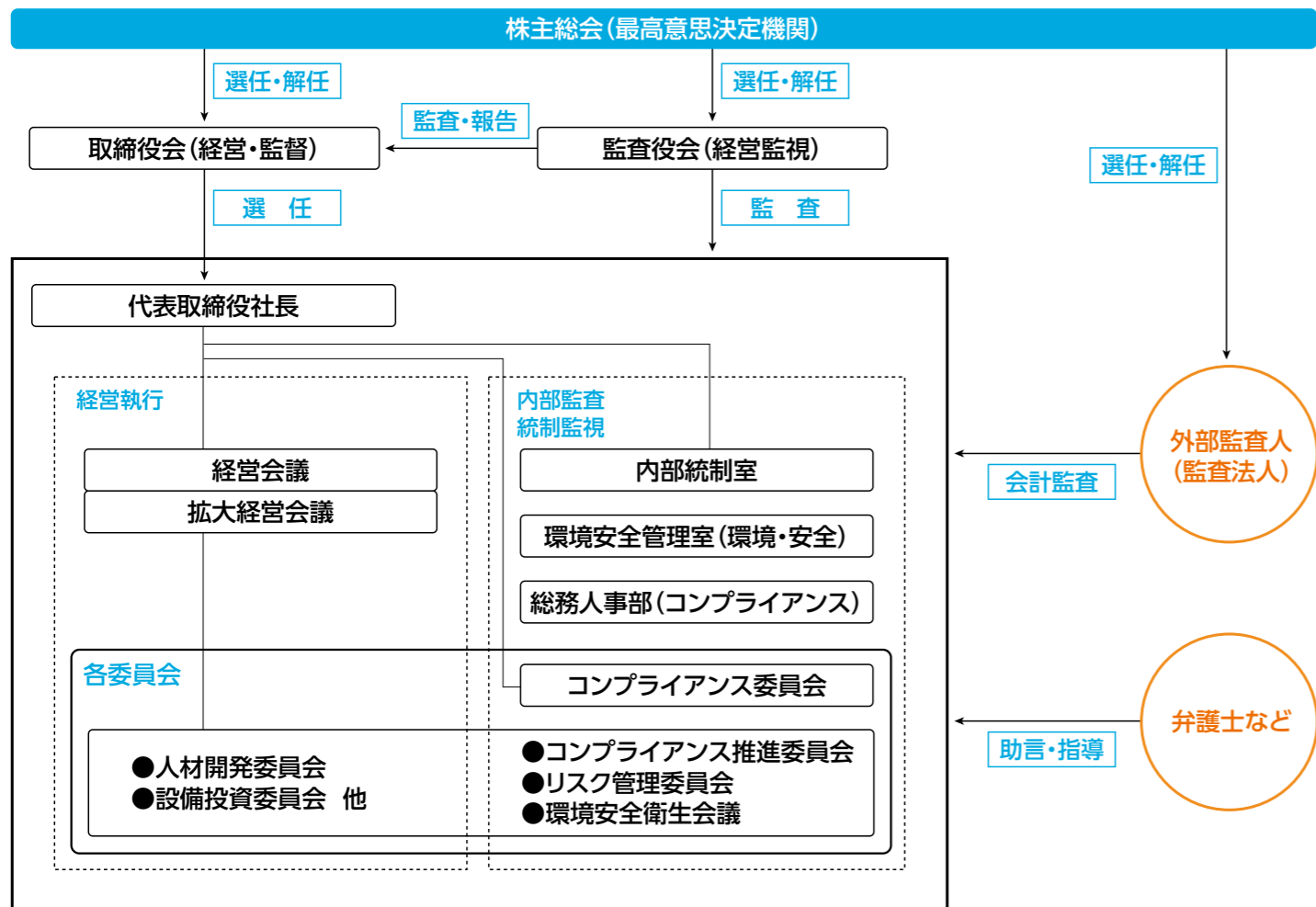
コーポレート・ガバナンスの仕組み

- 経営環境の変化に迅速に対応できる組織体制を確立する。
- 株主様をはじめ社外に対する公平かつ迅速・適正な情報発信による経営の透明性を確保する。
- 合理的な判断に基づく経営の効率性を追求する。
- 法令および企業倫理を遵守するコンプライアンス経営を徹底し、公正で健全な企業経営を行う。

コーポレート・ガバナンス体制

朝日工業グループでは、コーポレート・ガバナンスを強化・充実させていくことが、経営の重要な課題と認識し、以下のようなコーポレート・ガバナンス体制に基づき、組織を運営しています。

コーポレート・ガバナンス体制図



社外取締役を選任

朝日工業では2015年6月25日に社外取締役を選任しました。

- 取締役会における議論のさらなる活性化
- 取締役会の意思決定と業務執行に対する監督機能の強化

コンプライアンス

朝日工業グループでは、日常的な活動を通じ、コンプライアンスについての理解、浸透を推進しています。

職場のコンプライアンス推進活動

- コンプライアンス意識の理解、浸透、向上のための活動
- 年間活動計画の策定

啓蒙・教育活動

- 「こんぷらだより」(コンプラミニテスト付き)の発行(月1回)
- 年度毎にテーマを設定した社内研修(2014年度はハラスメント)

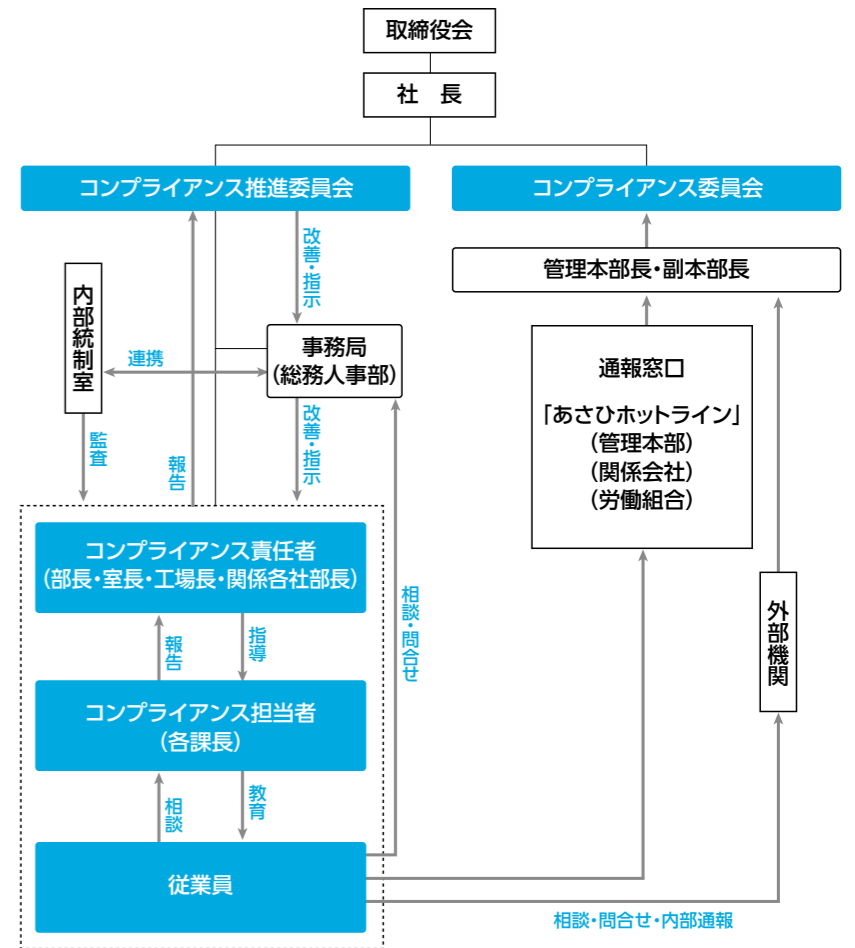
コンプライアンス・チェック

- 全役職員を対象にした「コンプライアンス・チェック」の実施

内部通報制度

- 社内、労働組合、弁護士事務所に通報窓口を設置

コンプライアンス体制図



コンプライアンス推進委員会…コンプライアンス推進活動や、教育・啓蒙活動などについて審議・決定しています。コンプライアンス委員会…内部通報案件など、コンプライアンス重要事項について対応しています。公正を期するため、メンバーには社外監査役も入っています。

リスクマネジメント

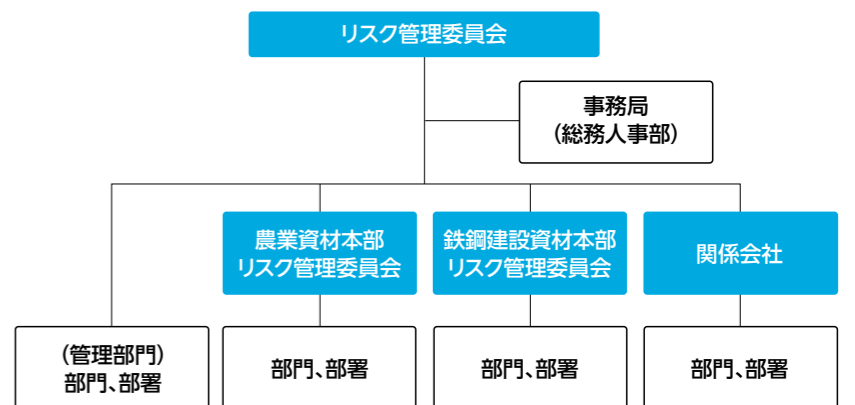
朝日工業グループでは、毎年、想定されるリスクを抽出、評価を行い、対応策を策定し、改善を進めております。

2014年度は、特に大雪を始めとした自然災害のリスクについて見直しを行い、新たな対策を実施いたしました。

事業継続計画 (BCP)

- 大規模地震を想定したBCPを策定
- 安否確認システムを導入
- 不断のBCP改訂

リスク管理委員会体制図

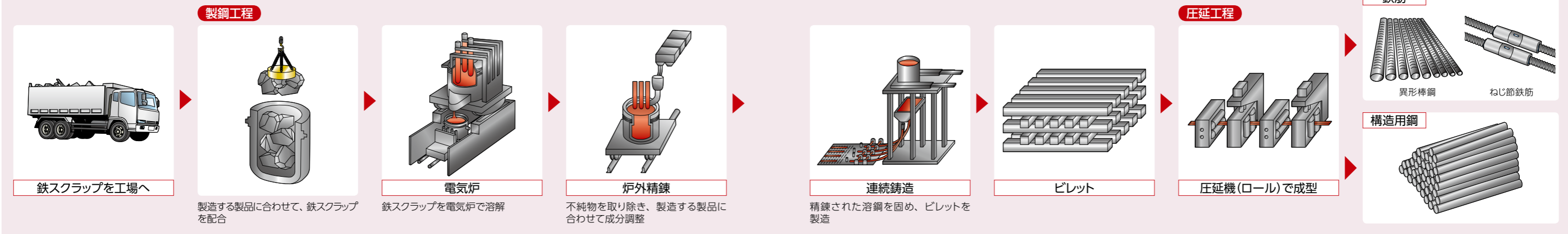


鉄鋼建設資材事業

鉄スクラップを再生することにより、鉄鋼製品を製造しています。製鋼工場で鉄スクラップを溶かし、ビレット(半製品)を製造、それを圧延工場で延ばし、製品に生まれ変わります。



電気炉で鉄スクラップを再生 強くて、高品質な鉄鋼製品を造り出し、安心・安全な社会生活の基盤を支えています。



異形棒鋼(鉄筋)

異形棒鋼は、マンションやオフィスビルなどの建設工事や高速道路、新幹線の橋脚部分に数多く使用されています。当社は、細いサイズから太いサイズまで製造・販売している数少ないメーカーです。

東京駅や表参道ヒルズ、首都高速などでも当社の鉄筋が使用されています。



構造用鋼

構造用鋼は、建築・土木資材から機械部品など幅広い分野の製品に生まれ変わります。羽田空港などの滑走路の補強材として、あるいは大型ショッピングセンターの基礎部分などに使われ、みなさまの生活を支えています。



ねじ節鉄筋「ネジエーコン」

ねじ節鉄筋は、機械式継手により鉄筋同士を接合するため、大がかりな施工具が不要で作業性が良く、施工性に優れています。また、天候にも左右されにくく工期の短縮が図れることから、ニーズは年々高まっています。

「ネジエーコン」は、北陸新幹線の橋脚の一部や東京スカイツリーのイーストタワーなどでも使用されています。



エポキシ鉄筋「AS-エポ鉄」

エポキシ鉄筋は、鉄筋を樹脂(エポキシ)で表面処理するため腐食を防止できます。沿岸部や河川、融雪材を使用する地域で使用されています。



北陸新幹線



東京駅



表参道ヒルズ



東京スカイツリーイーストタワー



羽田空港



首都高速

品質管理

様々な分析機器の充実、分析の自動化を図り、品質保証体制を万全なものとしております。また、ユーザーへのスピーディーな対応と情報のフィードバックを実施しております。



農業資材事業

肥料事業 資源循環型農業の実現

未利用資源からの原料開発、有機質肥料の粒状化技術により、安全で使いやすい肥料を生産しています。

粒状
有機質肥料の
トップメーカー

食品残渣、廃棄物などの未利用資源をリサイクルし、有機肥料原料を開発



鶏の羽・糞



ラーメンのスープを取った後のとんこつガラ



パームやし

当社は、46種類の有機原料を使用しています。有機原料は動植物由来で、土壌でゆっくり分解される環境に優しい原料です。自社開発原料の割合を高めることにより、安定生産、コスト低減に努めています。

トップクラスの造粒技術と環境に配慮した製造設備で有機質肥料を製造



製造設備



蓄熱脱臭設備



排水処理設備

●生産受託

当社の有機質肥料は、業界で高い評価をいただき、大手化成肥料メーカーから生産を受託しています。

土壌診断による施肥指導を通じて生産者をサポート



土壌分析



施肥指導



混合堆肥複合肥料 エコレット

- 土作りと肥料効果を兼ね備えた有機質肥料
- 家畜糞などを原料 → 廃棄物削減、低価格の実現
- 飼料用米市場へも対応



園芸事業 ガーデニングの楽しさと収穫の喜びにフォーカス

肥料メーカーとしての豊富なラインナップを活かし、園芸愛好家のニーズに応えた園芸用肥料を提供しています。

ガーデニングの
パートナー



ホームセンター当社製品



売り方の提案、顧客ニーズに対応した提案など、ホームセンターへの独自のアプローチにより、北は北海道から南は沖縄まで、販売拡大を狙っています。

肥料メーカーとしての実績と品質管理に評価をいただき、ホームセンターからはプライベートブランド(PB)商品の共同開発および製造のご依頼をいただいています。当社は、ナショナルブランド商品同様、今後益々PB商品にも力を入れていきます。

初心者でも安心 簡単に使える野菜ごとの肥料



経験者のニーズ オールマイティな肥料



上級者のこだわり 100%有機、即効性や低温時対応 など特定のニーズを捉えた肥料



New ラインナップ



農業資材事業

種苗事業 病気に強く、おいしい野菜の種の販売

自社開発、オランダの大手種苗会社との共同開発により誕生した、病気に強く味にもこだわった野菜品種、国内外から導入したユニークな野菜品種は、生産者からも消費者からも好評です。

作りやすさの
追求



取扱野菜種子は
15品目84種類

肥料事業と連動した
施肥指導や病害診断など
の栽培指導を実施



朝日のトマト

アニモ (スペイン語で元気)

- 黄化葉巻病に強い品種として広く認知されています。
- さらにおいしくなった改良品種の試験栽培が拡大しています。



朝日のカボチャ

プリメラ (スペイン語でNo.1)

- 果肉が厚く、濃い黄色の高品質種です。
- 粉質度が高く、甘く、栗のようにホクホクした食感が楽しめます。



褐斑病に強い
キュウリを
開発中

朝日の台木



土壌中の病原菌の感染を防ぐため接木が行われますが、この土台となるのが台木です。世界中で土壌消毒剤が使用できなくなり、台木の需要が拡大しています。朝日工業は、日本有数のメロン産地富良野でトップシェアを誇るメロン台木を始めとし、トマト台木にも力を入れています。

乾牧草事業 良質な乾牧草の輸入・販売

オーストラリアの合併会社(ジョンソン朝日 P13参照)で、厳しい品質管理のもと生産された乾牧草に加え、アメリカ・カナダからも良質な乾牧草を輸入し、日本の酪農家と肉牛生産農家に安定的に供給しています。

おいしいミルクと
ビーフのために



豊富な
品揃え

ジョンソン朝日で生産した乾牧草(オーツヘイ、ストローなど)を中心に、アメリカとカナダの乾牧草も取り揃え、日本全国の幅広いニーズに対応しています。

品質管理への
取り組み

- ジョンソン朝日では各段階で厳しい品質管理を実施しています。
- 牧草畑ごとの管理記録を作成し、トレーサビリティを実現
 - 異物混入防止のため、工場には金属探知機とX線検査装置を導入
 - 全ロット検査を実施し、合格品のみ出荷

TMF (発酵混合粗飼料)

- 数種の粗飼料を発酵させた牛用飼料
- JTジョンソン&サンズ社 (ジョンソン朝日のオーストラリア側パートナー)が開発
- 2015年より輸入開始
- 嗜好性が高く、乾牧草より手ごろな価格で供給



農業資材事業

海外展開 オーストラリアと中国で合併事業

1995年にオーストラリアに乾牧草の生産・輸出を行う「ジョンソン朝日 PTY. LTD.」、2011年に中国に有機質肥料の生産・販売を行う「萊陽龍大朝日農業科技有限公司」を設立しました。

ジョンソン朝日PTY. LTD.



オーストラリアのヴィクトリア州で乾牧草の生産・輸出

- 合併相手** JTジョンソン&サンズ社
- 特徴** X線検査、成分分析等徹底的な品質管理
原料の牧草は農家から購入するのみでなく、3,000haの自社農園でも生産
- 輸出先** 日本、中国、韓国、台湾



萊陽龍大朝日農業科技有限公司



生産能力
30,000トン

中国山東省で有機質肥料の生産・販売

- 合併相手** 豊田通商および龍大食品集団(龍大食品)
- 特徴** 地元で発生する有機原料を利用
日本式品質管理、土壌診断による営農指導
- 販売先** 中国国内
龍大食品や関連会社、大手農業生産企業、卸店経由で大口農家

環境ソリューション事業

株式会社環境科学コーポレーション

水質、土壌、大気、放射能、騒音など、幅広い調査・分析を行い、快適な生活環境に貢献しています。

水質調査

川、湖沼、海域、地下水などの水質を調査します。



土壌調査

土壌汚染の調査および建設残土の分析を行います。



大気調査

大気中のダイオキシン・排ガスなどの調査・分析を行います。

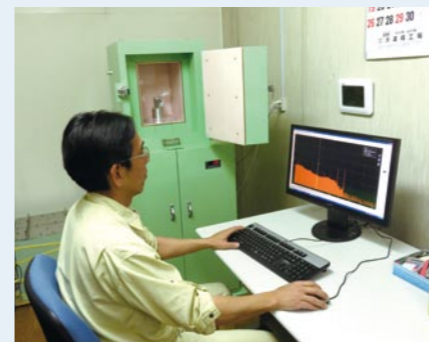


放射能測定

東日本大震災後、みなさまの不安に応えるため、放射能測定が必要となりました。
当社では、大気、土壌、下水汚泥の他、水、牛乳、野菜、果物などの各種放射能測定を行っています。



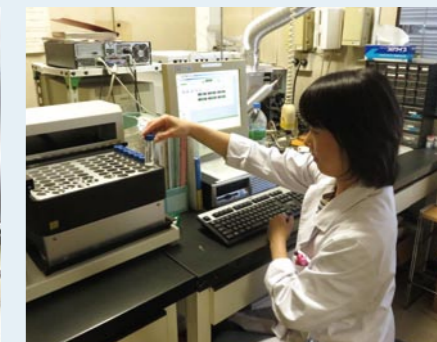
技術士、環境計量士などの環境のプロフェッショナルが最新の機器を用いて、より詳細な分析を行っています。



放射能分析



ダイオキシン分析



農薬分析

砕石砕砂・マテリアルリサイクル事業

株式会社上武

砕石砕砂事業

埼玉県皆野町に95万㎡の砵区を保有しています。この砵区は群馬県南部から埼玉県北部に連なる跡倉層砂岩帯の中間に位置し、ここで採掘される岩石を原料に、ビル、橋、道路などの建設に使用される砕石砕砂を生産販売しています。



主要製品

コンクリート用砕石



- 生コンクリート用原料
- コンクリート二次製品用原料

砕砂



- 生コンクリート用原料
- コンクリート二次製品用原料
- アスファルト合材用原料

道路用砕石



- アスファルト合材用原料
- ガーデニング材

マテリアルリサイクル事業

廃棄物の削減と地球環境の維持・再生を促進する「循環社会」の構築をめざし、廃棄物(木くず・コンクリートくずなど)のリサイクルを推進しています。

●再生路盤材

建物の解体から発生するコンクリートくずなどを受け入れ機械で破碎し、再生路盤材としてリサイクルしています。

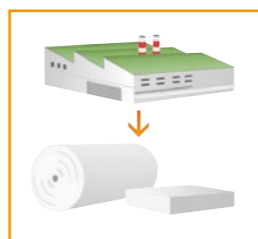


●木くずチップ

家屋の解体、樹木の伐採などから出る木くずをリサイクルしています。



木くずチップ



製紙会社などへ販売

環境活動報告

環境マネジメント

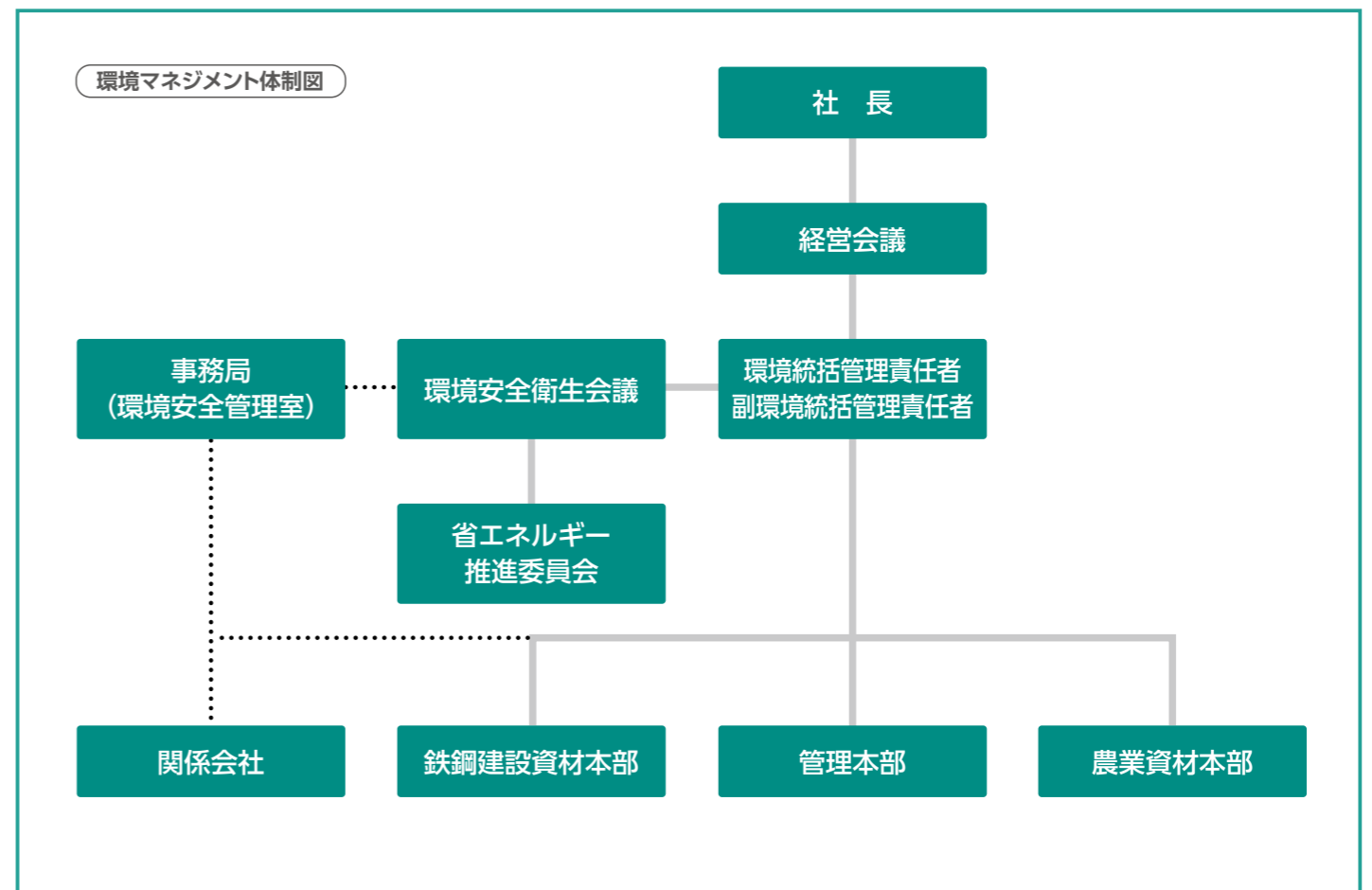
朝日工業グループは、「地球環境や地域社会への貢献」を何より大切に、「みなさまから愛され続ける企業」でありたいという思いのもと、活動しています。

朝日工業グループ環境指針

環境負荷低減、地球温暖化防止、ゼロエミッションを通して、環境へ貢献します。

環境マネジメント体制

朝日工業グループ一体となった環境マネジメント体制を構築し、継続的な環境活動を強力に推進します。



朝日工業の環境活動計画

朝日工業グループは、3ヵ年を活動期間とする中期環境活動計画に基づいて環境活動を推進しています。

第3期中期環境行動計画：2012～2014年度

〈重点テーマ〉 環境負荷低減の継続、環境配慮型工場の確立、先進的環境企業としての取り組み

第4期中期環境行動計画：2015～2017年度

〈重点テーマ〉 循環型社会形成への貢献、環境負荷低減などの推進、環境経営の展開

第3期中期環境行動計画(2012～2014年度)の実績

環境負荷低減の継続

省エネルギー推進・CO₂削減

省エネルギー推進 CO₂排出量の削減

朝日工業では、全社のエネルギー管理責任者で構成する「省エネルギー推進委員会」を中心に各部門の省エネルギー対策を推進し、CO₂排出量の削減につなげています。

中期環境行動計画の目標達成状況

エネルギー原単位(5ヵ年度平均1%低減)については、目標未達成となりました。

2014年度は前年度比1.2%低減することができましたが、2012年度に生産数量が減少した際の原単位悪化が影響し、5ヵ年度平均では0.2%低減に留まりました。

CO₂排出量については、2014年度の実績が1990年度比38.5%削減となり、目標を達成しました。

2014年度の活動

鉄鋼部門は、雪害により2014年6月中旬まで製鋼工場が休止していました。

これによりエネルギー使用量は減少していますが、工場の再稼働後の生産工程改善、操業体制や生産鋼種の見直しといった省エネルギー活動にも取り組み、さらなるエネルギー使用量の低減に努めました。

肥料部門は、生産効率向上の取り組みを継続し、エネルギー使用量の削減につなげています。

事務所での日常的な節電活動や、営業車両のハイブリッド車への切替えも引き続き推進しています。



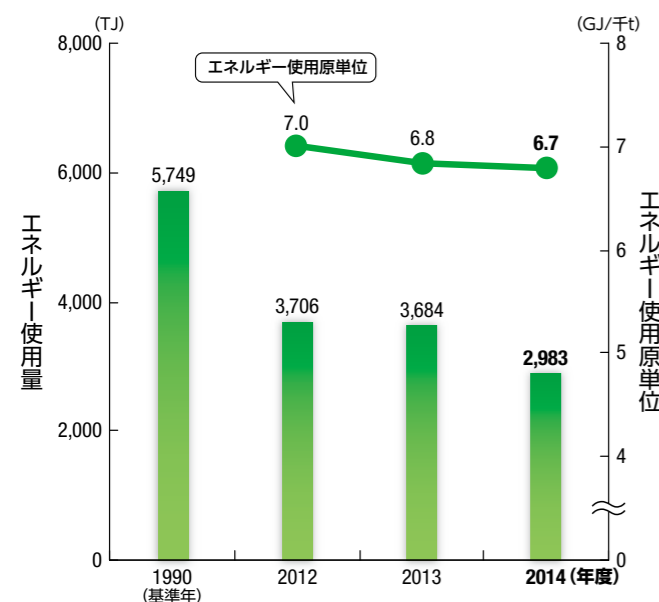
省エネ推進掲示

第3期中期環境行動計画の成果

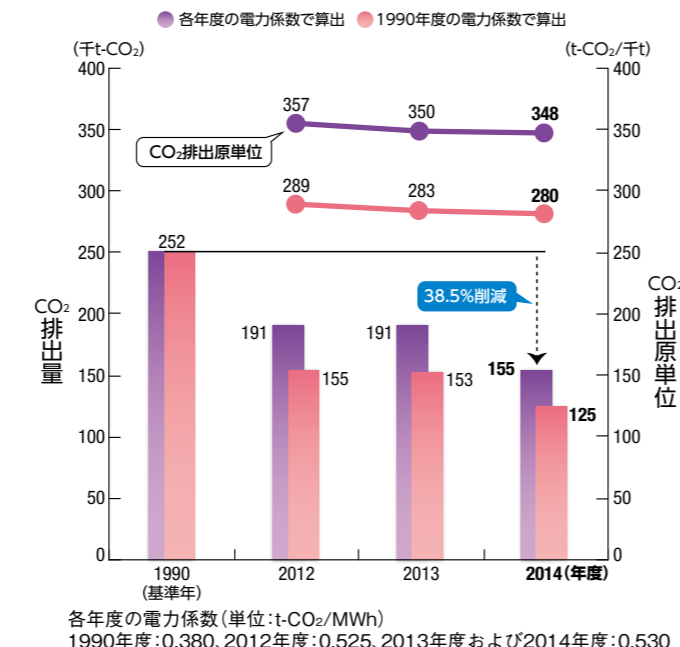
目標	実績		評価
エネルギー原単位 5ヵ年度平均1%低減	5ヵ年度平均	未達成 0.2%低減	△
CO ₂ 排出量 1990年度比25%以上削減	2014年度	達成 38.5%削減	◎
	中期3ヵ年	2012、2013年度未達成	○

評価 ◎:100%達成 ○:70%達成 △:70%未満の達成、改善が必要

エネルギー使用量の推移 5ヵ年度平均0.2%削減



CO₂排出量・原単位の推移



各年度の電力係数(単位:t-CO₂/MWh) 1990年度:0.380、2012年度:0.525、2013年度および2014年度:0.530

環境自主管理強化

大気汚染防止

朝日工業では、工場の各施設から出る排ガスについて、法令よりも厳しい自主管理目標を設けて管理しています。

2014年度は、前年度に引き続き自主管理目標(規制値の1/2以下)を達成しました。今後も、施設の適正な運用に努めます。

社員による工場周辺の巡視(毎日)も継続しており、環境事故の未然防止を図るとともに、社員一人ひとりの環境意識の向上につながっています。

水質汚濁防止

埼玉事業所では、排水についても、法令よりも厳しい自主管理目標(規制値の1/10以下)を設けて監視を強化しています。

2014年度は、浮遊物質(SS)が自主管理目標を上回る測定値となりました。

SSの測定値上昇は、製鋼工場の再稼働と、夏季の気温などが影響したものと推察されます。現在は自主管理目標を達成する水準に回復しています。

今後も監視を継続し、低位安定に努めます。



採水作業(水質測定)

第3期中期環境行動計画の成果

目標	実績		評価
大気汚染防止 排ガス規制値の1/2以下	2014年度 中期3ヵ年	各年度達成	◎
水質汚濁防止 排水規制値の1/10以下	2014年度	未達成	○
	中期3ヵ年	2012、2013年度達成	○

廃棄物ゼロエミッション(再資源化)

ゼロエミッションに向けた活動

朝日工業から排出される産業廃棄物の約50%以上を占めていた「ばいじん」の排出がなくなり、2014年度の排出量は大幅に減少しました。

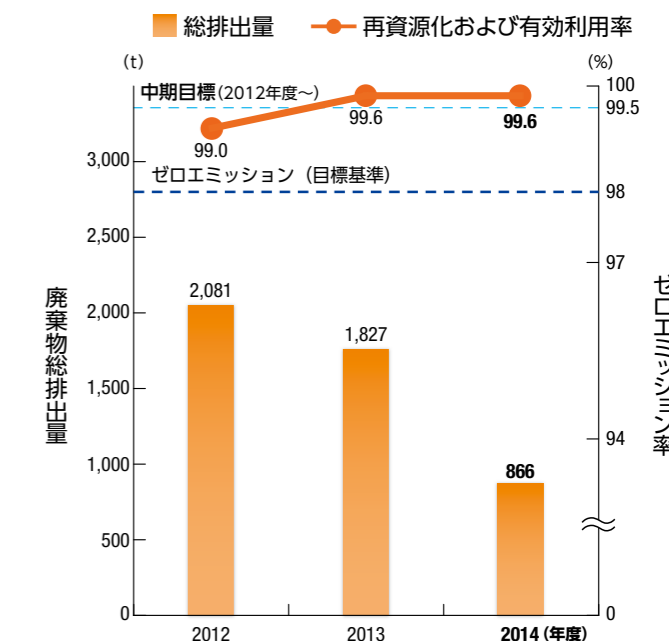
「ばいじん」は製鋼工程から発生するものですが、2007年度から社内で再資源化を推進し、2014年度は全量再資源化することができました。

また、8年連続ゼロエミッションを達成することができ、さらに中期目標である「再資源化および有効利用率99.5%以上」も達成することができました。

今後も再資源化への取り組みに努め、より高いレベルのゼロエミッションの継続を目指します。

※朝日工業グループでは、基準排出量(2003年度:7,223トン)に対する再資源化および有効利用率98%をゼロエミッションとしています。

廃棄物排出量の推移



第3期中期環境行動計画の成果

目標	実績		評価
ゼロエミッション 再資源化および有効利用率99.5%以上	2014年度	達成 99.6%	◎
	中期3ヵ年	2012年度未達成	○

環境配慮型工場の確立

環境コミュニケーションの促進

目標	実績	評価
<ul style="list-style-type: none"> ●地域コミュニケーション活発化 ●環境情報の積極的な開示 	中期3カ年 <ul style="list-style-type: none"> ●地域住民と環境コミュニケーションを実施 ●社員による事業所周辺の環境巡視を毎日実施 ●朝日フラワーガーデンの整備 ●朝日神川ギャラリーの作品を拡充(地元小中学生絵画の展示) 	◎



朝日フラワーガーデン



工場周辺の美化活動

工場美化・緑化

目標	実績	評価
<ul style="list-style-type: none"> ●工場周辺の環境美化、保全活動促進 ●工場緑化の促進および5S活動の徹底推進 	中期3カ年 <ul style="list-style-type: none"> ●事業所、工場周辺道路などの美化、清掃を定期的実施 ●各職場のパトロールチェックを定期的実施 	◎

先進的環境企業としての取り組み

生物多様性保全への貢献・未利用エネルギーの利用促進

目標	実績	評価
<ul style="list-style-type: none"> ●製品開発、販売による環境への貢献 ●環境ホルモン様物質の実態調査、分析 ●生物生息、保全の対応 ●利用可能なエネルギーの調査検討 	中期3カ年 <ul style="list-style-type: none"> ●循環型社会に寄与する混合堆肥複合肥料のアイテム拡充、未利用有機原料を開発 ●農業使用の低減につながる耐病性品種を普及拡大 ●環境ホルモン様物質の定期測定・把握(測定結果：定量下限値未満) ●事業所、工場の敷地の緑化、生物生息エリアの整備 ●生産工程から発生する排熱、排風の再利用検討 	◎



混合堆肥複合肥料



社内環境セミナー



環境ポスター優秀作品

環境意識の向上

目標	実績	評価
<ul style="list-style-type: none"> ●環境意識教育の促進 ●環境ボランティア活動の実施 	中期3カ年 <ul style="list-style-type: none"> ●社内環境セミナー開催 ●環境標語・ポスターコンクール開催 ●環境関連検定の取得促進を継続(対象：eco検定、社内エコ検定) ●ボランティア活動(河川、道路清掃)の継続実施 	◎

化学物質の適正管理

朝日工業で取扱う、PRTR法*で定められている特定化学物質は、主に製鋼工程で発生する「ばいじん」に含まれています。

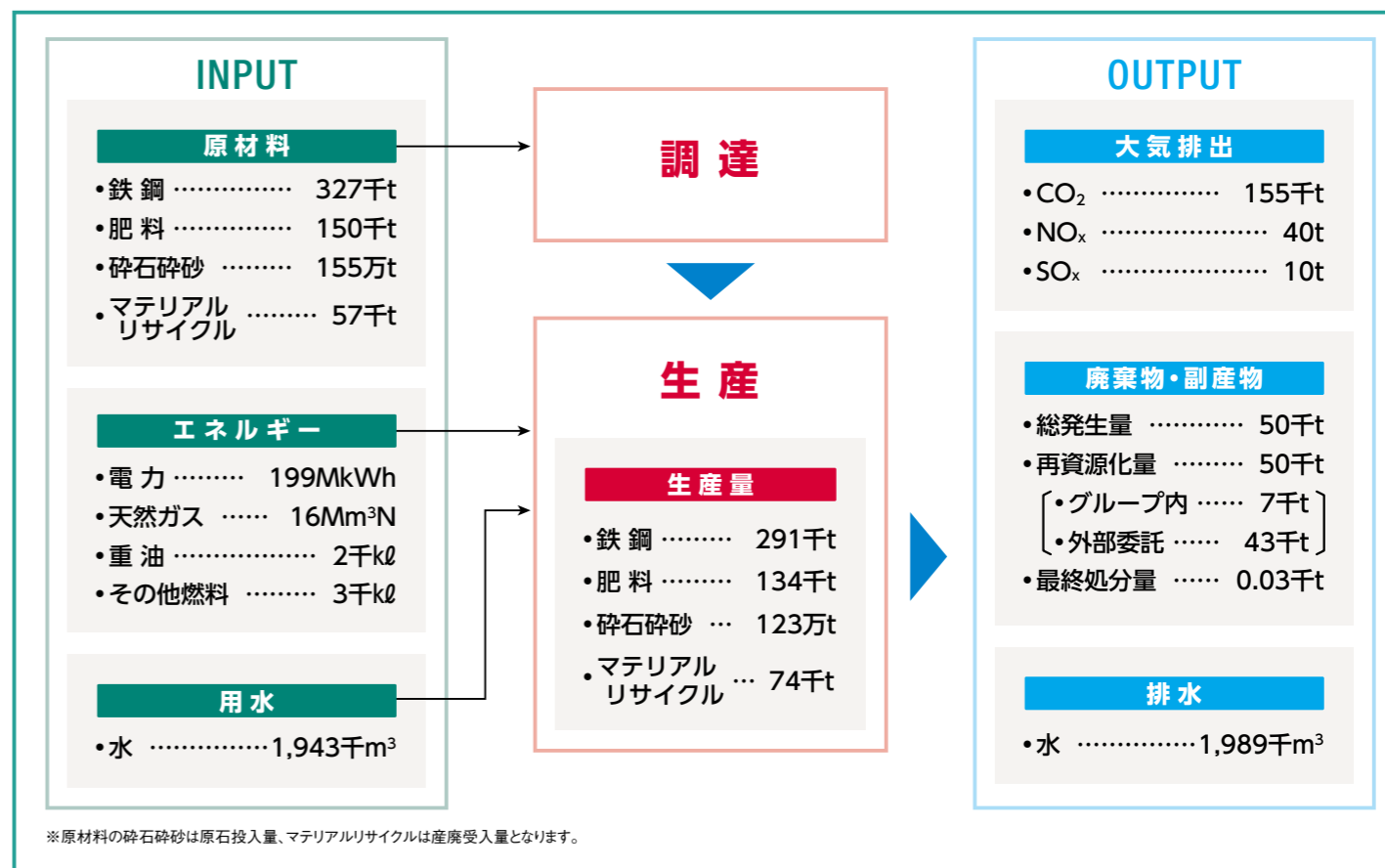
「ばいじん」は2007年度から社内で再資源化を推進しており、2014年度は全量の再資源化を達成したことで特定化学

物質の排出量、移動量も大幅に削減することができました。

今後も化学物質の取扱量の把握と、適正な管理に努めます。

*PRTR法：特定化学物質の環境への排出量の把握および管理の改善に関する法律

マテリアルバランス(2014年度)



第4期中期環境行動計画(2015～2017年度)の概要

朝日工業グループは、2015年度から3カ年を対象年度とする「第4期中期環境行動計画」を策定し、活動をスタートしました。第4期中期環境行動計画では、主要事業が循環型社会の形成に資することを強く意識し、環境企業としてのブランド構築を目指します。

	取組項目	目標・取組方法
循環型社会形成への貢献	環境と本業の一体化推進	事業の環境性の再評価と事業規模拡大 循環型社会に貢献する製品拡充 販売数量、売上高などによる評価指標設定
環境負荷低減などの推進	地球温暖化対策	生産活動のCO ₂ 排出量削減 1990年度比25%削減(電気のCO ₂ 排出係数固定) 2005年度比 5%削減
	省エネルギー推進	エネルギー単位の5カ年度平均1%削減 再生可能エネルギー、利用可能なエネルギーの検討
	環境負荷低減	再資源化および有効利用率99.5%以上 排ガス 規制値の1/2以下 排水 規制値の1/10以下
環境経営の展開	生物多様性保全	耐病性種子の開発導入推進 事業所、工場の保全活動 水源、緑化保全等を目的とする諸活動への参画
	環境コミュニケーション強化	環境情報発信 地域交流への積極的参加
環境経営の展開	環境教育	社内環境セミナー開催 各種検定取得の促進

環境会計

この環境会計は、当社の環境会計作成マニュアルならびに環境会計ガイドライン(環境省発行)に基づいて作成しています。

環境保全コスト

(百万円)

区分	グループ合計			コスト累計 (2005~2014年度)	構成率 (%)
	2012年度	2013年度	2014年度		
1. 公害防止コスト ^{*1}	632	729	530	5,580	50.2
2. 地球環境保全コスト ^{*2}	198	198	84	872	7.8
3. 資源循環コスト	464	361	330	3,574	32.2
4. 管理活動コスト	60	49	38	400	3.6
5. 研究開発コスト	51	52	50	377	3.4
6. 社会活動コスト	15	21	25	166	1.5
7. 環境損傷対応コスト他	6	5	5	144	1.3
環境保全コスト(計)	1,426	1,415	1,062		
環境保全コスト(累計)	8,636	10,051	11,113	11,113	100.0

※1: 公害防止コストの減少は、主に製鋼工程の排ガス集塵機の減価償却費および修繕費の減少によるものです。

※2: 地球環境保全コストの減少は、主に圧延工程の圧延加熱炉の減価償却費の減少によるものです。

経済効果

(百万円)

区分	グループ合計			コスト累計 (2005~2014年度)	構成率 (%)
	2012年度	2013年度	2014年度		
1. 社内リサイクル効果 ^{*1}	341	403	381	3,245	51.6
2. 廃棄物処理効果 ^{*2}	104	76	57	1,182	18.8
3. 製品コスト低減効果	41	59	51	639	10.1
4. 産廃受託処理効果	117	117	102	1,228	19.5
経済効果額(計)	603	655	591		
経済効果額(累計)	5,048	5,703	6,294	6,294	100.0

※1: 社内リサイクル効果の減少は、主に鉄鋼の生産量減に伴うリサイクル量の減少によるものです。

※2: 廃棄物処理効果の減少は、主にスラグから回収したメタル量の減少によるものです。

環境活動の報告内容について

詳細な環境データについては、朝日工業ホームページの「環境活動」のページに掲載しています。

URL <http://www.asahi-kg.co.jp/csr/environment.html>

財務データ

財務ハイライト(連結)

		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
売上高	百万円	40,535	43,375	40,175	43,591	35,494
営業利益	百万円	△ 772	194	△ 1,176	△ 562	409
経常利益	百万円	△ 737	216	△ 1,235	△ 641	348
当期純利益	百万円	△ 801	△ 18	△ 1,480	△ 11,093	549
総資産	百万円	40,733	42,676	41,348	27,292	27,938
純資産	百万円	18,780	18,268	16,482	5,160	6,028
自己資本比率	%	46.1	42.8	39.9	18.9	21.6
1株当たり当期純利益	円	△ 114.57	△ 2.60	△ 211.48	△ 1,584.79	78.52
1株当たり純資産額	円	2,682.86	2,609.78	2,354.67	737.18	861.20

※当社は、2013年7月1日付で普通株式1株につき普通株式100株の割合で株式分割を行っております。なお、2010年度から2013年度の「1株当たり当期純利益」、「1株当たり純資産額」については、株式分割を考慮した額を記載しております。



連結貸借対照表

(百万円)

	2011年 3月31日現在	2012年 3月31日現在	2013年 3月31日現在	2014年 3月31日現在	2015年 3月31日現在
資産の部					
流動資産	17,004	19,529	18,140	14,162	14,849
現金及び預金	2,158	2,327	2,561	2,640	1,501
受取手形及び売掛金	5,998	7,869	7,792	5,952	5,671
商品及び製品	5,155	6,999	5,477	3,221	5,830
原材料及び貯蔵品	1,774	1,766	1,908	2,060	1,527
その他	1,923	573	410	293	321
貸倒引当金	△ 5	△ 7	△ 10	△ 5	△ 3
固定資産	23,728	23,147	23,208	13,129	13,088
有形固定資産	20,983	20,253	20,112	10,652	10,620
建物及び構築物(純額)	4,058	3,958	3,785	3,139	3,344
機械装置及び運搬具(純額)	13,152	12,579	12,540	4,053	3,817
土地	2,608	2,625	2,665	2,678	2,678
その他	1,164	1,090	1,120	780	779
無形固定資産	943	771	659	196	193
投資その他の資産	1,801	2,122	2,436	2,280	2,274
資産合計	40,733	42,676	41,348	27,292	27,938

負債の部

流動負債	15,745	19,423	20,279	16,848	16,638
支払手形及び買掛金	6,437	8,405	7,714	5,947	5,626
短期借入金	3,085	5,115	5,915	5,915	7,245
1年内償還予定の社債	60	60	120	120	120
1年内返済予定の長期借入金	1,200	1,330	1,690	1,790	1,434
未払法人税等	33	55	84	62	77
賞与引当金	277	337	261	146	135
その他	4,652	4,120	4,493	2,866	2,000
固定負債	6,208	4,984	4,586	5,284	5,271
社債	240	180	330	210	90
長期借入金	3,200	2,455	2,395	3,105	3,623
退職給付引当金	1,100	1,052	1,083	—	—
退職給付に係る負債	—	—	—	1,050	722
その他	1,668	1,296	777	918	835
負債合計	21,953	24,408	24,865	22,132	21,909

純資産の部

株主資本	18,581	18,073	16,102	4,729	5,361
資本金	2,190	2,190	2,190	2,190	2,190
資本剰余金	1,802	1,802	1,802	1,802	1,802
利益剰余金	14,882	14,374	12,404	1,030	1,662
自己株式	△ 293	△ 293	△ 293	△ 293	△ 293
その他の包括利益累計額	198	195	379	430	667
その他有価証券評価差額金	151	160	294	351	354
為替換算調整勘定	47	34	84	103	131
退職給付に係る調整累計額	—	—	—	△ 23	181
純資産合計	18,780	18,268	16,482	5,160	6,028
負債純資産合計	40,733	42,676	41,348	27,292	27,938

連結損益計算書

(百万円)

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
売上高	40,535	43,375	40,175	43,591	35,494
売上原価	34,543	36,145	34,340	37,317	29,174
売上総利益	5,991	7,230	5,835	6,274	6,320
販売費及び一般管理費	6,764	7,035	7,011	6,836	5,911
営業利益	△ 772	194	△ 1,176	△ 562	409
営業外収益	240	258	178	174	197
営業外費用	206	235	238	253	258
経常利益	△ 737	216	△ 1,235	△ 641	348
特別利益	13	—	—	3	545
特別損失	549	145	233	9,337	263
税金等調整前当期純利益	△ 1,274	71	△ 1,468	△ 9,975	630
法人税、住民税及び事業税	44	60	75	104	114
法人税等調整額	△ 516	28	△ 64	1,013	△ 33
当期純利益	△ 801	△ 18	△ 1,480	△ 11,093	549

連結包括利益計算書

(百万円)

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
少数株主損益調整前当期純利益	△ 801	△ 18	△ 1,480	△ 11,093	549
その他の包括利益	△ 18	△ 3	184	74	236
その他有価証券評価差額金	△ 20	9	133	56	3
為替換算調整勘定	1	△ 13	50	18	28
退職給付に係る調整額	—	—	—	—	204
包括利益	△ 820	△ 21	△ 1,295	△ 11,018	785
親会社株主に係る包括利益	△ 820	△ 21	△ 1,295	△ 11,018	785
少数株主に係る包括利益	—	—	—	—	—

連結キャッシュフロー

(百万円)

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,452	1,398	1,299	2,116	△ 1,164
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 6,239	△ 2,829	△ 1,592	△ 2,115	△ 1,044
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,686	1,601	519	73	1,065
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	0	7	3	4
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 2,098	169	234	78	△ 1,139
現金及び現金同等物の期首残高	4,256	2,158	2,327	2,561	2,640
現金及び現金同等物の期末残高	2,158	2,327	2,561	2,640	1,501

連結株主資本等変動計算書

(2014年4月1日から2015年3月31日まで)

(百万円)

	株主資本				その他の包括利益累計額					純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	2,190	1,802	1,030	△ 293	4,729	351	103	△ 23	430	5,160
会計方針の変更による累積的影響額			82		82					82
会計方針の変更を反映した当期首残高	2,190	1,802	1,112	△ 293	4,811	351	103	△ 23	430	5,242
当期変動額										
剰余金の配当			—		—					—
当期純利益			549		549					549
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						3	28	204	236	236
当期変動額合計	—	—	549	—	549	3	28	204	236	785
当期末残高	2,190	1,802	1,662	△ 293	5,361	354	131	181	667	6,028

セグメント別売上高・セグメント利益

(百万円)

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
売上高					
鉄鋼建設資材事業	25,751	28,550	24,961	26,242	19,860
農業資材事業	12,167	12,323	12,729	14,628	13,018
環境ソリューション事業	800	810	695	723	642
砕石砕砂・マテリアルリサイクル事業	1,835	1,822	1,800	1,994	1,938
その他(※1)	458	437	374	223	151
調整額(※2)	△ 478	△ 568	△ 385	△ 221	△ 116
計	40,535	43,375	40,175	43,591	35,494
セグメント利益					
鉄鋼建設資材事業	△ 569	375	△ 1,045	△ 1,210	65
農業資材事業	810	865	881	1,532	980
環境ソリューション事業	△ 75	71	1	19	36
砕石砕砂・マテリアルリサイクル事業	72	67	77	146	151
その他(※1)	2	3	4	△ 30	△ 20
調整額(※2)	△ 1,012	△ 1,189	△ 1,095	△ 1,018	△ 804
計	△ 772	194	△ 1,176	△ 562	409

※1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントの業務請負事業です。
 ※2. 「調整額」は、主に報告セグメント以外の部門で発生する一般管理費です。

トピックス

神川農場

2013年秋、神川農場がオープンしました。

これまで埼玉事業所周辺に点在していた農場を1つに集約し、肥料試験と育種を行う神川農場をオープンしました。



総面積 31,000㎡の農場(大型ハウス1棟、中型ハウス5棟、パイプハウス10棟、露地畑など)

2014年は、神川農場で春と秋の2回、フィールドデイ(農場見学会)を開催しました。

フィールドデイを含め、年間1,000名の関係者のみなさまにご来場いただきました。



春と秋の年2回、生産農家、JAグループ、野菜流通・種苗関係者、マスコミなどを招待し、フィールドデイを開催

種苗開発

交配による育種法で新品種の開発を行っています。作物の特性、耐病性、成長速度など、父系と母系の長所を併せ持った作物をつくるために、いくつかの種類を掛け合わせ、優良な品種を選抜するので、新しい品種を作り出すには、最低でも5～7年かかります。トマト、ミニトマト、カボチャ、来年販売予定のキュウリを中心に、耐病性、高収量、栽培のしやすさに焦点を当て開発を進めています。

安心・安全

生産者に優しい
消費者に優しい
地球に優しい

肥料開発

ラボでの無機化試験、溶出試験、窒素等分析、造粒性試験など実施後、神川農場などで肥料効果の試験を行い、商品化の検討が行われます。現在、重点的に行っている試験は緩効性肥料や新たな銘柄のエコレットなどです。神川農場は、試験農場であると同時にデモンストレーション農場としての役割も担っており、生産者やJA関係者に公開しています。

海外種苗会社
国内研究機関

農業試験場
研究機関

朝日工業グループCSR指針

社会への貢献、感謝、恩返しを大切にします。

教育支援



小学生柔道大会への協賛



地元小学校でのトマト栽培教室



地元小学生の工場見学



イベントでの種まき体験



水生生物調査教室



朝日写真ニュース寄贈

国際社会への貢献



国際連合世界食糧計画 WFP協会の活動を支援

障がい者自立支援



肥料の袋詰め作業

地域社会への貢献



朝日フラワーガーデン



朝日神川ギャラリー



2008年3月より、埼玉事業所の外壁に地元の小中学生の絵を展示しています。8年目を迎えた2015年3月には新たに49点の絵画が加わり、合計で300点を超えました。このギャラリーを通して、地域のみなさまとのコミュニケーションの輪が広がっています。



地域住民のための納涼祭を開催

配当金について

当社の配当方針は、業績、財政状態および企業価値の向上に向けた事業投資のための資金需要などを総合的に勘案したうえ、株主のみなさまへの利益還元を図りたいと考えております。

しかしながら当連結会計年度におきましては、財務基盤の強化に努める必要があるため、誠に遺憾ながら配当を見送らせていただきました。

株主優待制度のご案内

毎年3月31日現在の当社株主名簿に登録された株主様に対してお米券を送付させていただきます。

2013年3月31日以降、1年以上継続保有の株主様に対し、毎年3月31日現在の所有株式数に応じて、通常優待と合わせてクオカードを送付させていただきます。

配当金および株主優待制度

配当金	2012年度	2013年度	2014年度
	中間	3,000円	0円
期末	4,000円	0円	0円
年間配当金	7,000円	0円	0円

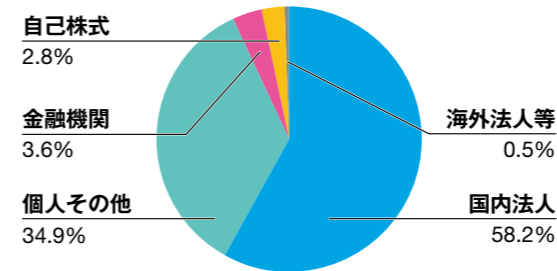
株主優待制度

持株数	優待内容	
	通常株主優待	※長期保有株主優待 (1年以上保有の株主様)
100株以上200株未満	お米券(4枚)	クオカード(500円分)
200株以上300株未満	お米券(8枚)	クオカード(1,000円分)
300株以上500株未満	お米券(12枚)	クオカード(1,500円分)
500株以上	お米券(16枚)	クオカード(2,000円分)

※株主番号が変更になった場合は継続保有となりません。(以下の場合など)
 ①取り扱い証券会社の変更 ③証券会社の貸株サービスの利用
 ②全所有株式売却後の買い戻し ④相続などによる株式名義人の変更

上場市場 東京証券取引所ジャスダック
 証券コード 5456
 定時株主総会 6月
 株式 発行可能株式総数 24,000,000株
 発行済株式の総数(自己株式を含む) 7,200,000株
 株主総数 6,801名

株式分布状況



編集方針

当レポートは、朝日工業グループ(朝日工業および関係会社)の事業活動、財務情報、2014年度における環境活動や社会貢献活動をみなさまにわかりやすく報告することを目的として、編集しております。

対象組織

朝日工業株式会社
 株式会社環境科学コーポレーション
 株式会社上武
 株式会社ティ・アンド・アイ
 ジョンソン朝日 PTY. LTD.
 萊陽龍大朝日農業科技有限公司

対象期間

2014年4月1日～2015年3月31日
 (※一部、上記期間以外の内容も含まれます)
 発行年月 2015年7月
 前回発行 2014年7月
 次回発行予定 2016年7月

参考ガイドライン

・GRI(Global Reporting Initiative)の「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン 第3版(G3)」
 ・環境省の「環境報告書ガイドライン」(2012年度版)

ホームページでの開示

<http://www.asahi-kg.co.jp/csr/>

お問い合わせ先

朝日工業株式会社 管理本部
 経営企画部 広報課
 TEL:03-3987-0283 メールアドレス:ir@asahi-kg.co.jp

会社概要 (2015年6月25日現在)

商号 朝日工業株式会社
 本社 〒170-0013
 東京都豊島区東池袋三丁目23番5号
 Daiwa東池袋ビル
 創立 1935年8月16日
 設立 1991年10月29日
 資本金 2,190百万円
 従業員 416名(グループ 507名)

役員紹介 (2015年6月25日現在)

取締役

代表取締役社長	村上 政徳
常務取締役	中村 紀之
常務取締役	町田 尚輝
常務取締役	矢口 誠
取締役	広瀬 清
取締役	佐藤 真
取締役	稲場 進
取締役(社外)	田島 伸一

監査役

監査役(常勤)	田島 一郎
監査役(常勤)	佐藤 光
監査役(社外)	村田 恒
監査役(社外)	新垣 良爾

事業所

本社・事業所

本社
 〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-23-5 Daiwa東池袋ビル
 TEL(03)3987-2161 FAX(03)3987-5326

埼玉事業所
 〒367-0394 埼玉県児玉郡神川町渡瀬222
 TEL(0274)52-2711 FAX(0274)52-4761

大阪事業所
 〒530-0047 大阪府大阪市北区西天満1-2-5 大阪JAビル
 TEL(06)6311-6215 FAX(06)6311-6220

鉄鋼工場

埼玉工場
 〒367-0394 埼玉県児玉郡神川町渡瀬222
 TEL(0274)52-2713 FAX(0274)52-6019

肥料工場

関東工場
 〒367-0394 埼玉県児玉郡神川町渡瀬222
 TEL(0274)52-2712 FAX(0274)52-4249

千葉工場
 〒289-0506 千葉県旭市さくら台1-13
 TEL(0479)68-1600 FAX(0479)68-1621

関西工場
 〒528-0005 滋賀県甲賀市水口町水口6776
 TEL(0748)62-8171 FAX(0748)62-9847

研究所

生物工学研究所(肥料・種苗)
 〒367-0394 埼玉県児玉郡神川町渡瀬222
 TEL(0274)52-6339 FAX(0274)52-4534

神川農場(肥料・種苗)
 埼玉県児玉郡神川町大字新里字東北原863-2

農業相談室

〒367-0394 埼玉県児玉郡神川町渡瀬222
 TEL(0274)52-6462 FAX(0274)52-5172

沿革

1935年(昭和10年)

●朝日化学肥料(株)創立
 肥料事業の前身(兵庫県尼崎市)



1936年(昭和11年)

●日本ニッケル(株)創立
 鉄鋼事業の前身(埼玉県児玉郡)



1960年(昭和35年)

●朝日化学肥料(株)が日本ニッケル(株)を吸収し、
 社名を西武化学工業(株)に変更 西武グループ入り
 肥料と鉄鋼というビジネスモデルが誕生

1991年(平成3年)

●現在の朝日工業(株)設立

朝日工業

2003年(平成15年)

●セゾングループ(旧 西武流通グループ)より独立

2005年(平成17年)

●JASDAQに上場(証券コード5456)

JASDAQ

2011年(平成23年)

●朝日工業グループの上武エコ・クリーン(株)と
 上武産業(株)が合併 (株)上武へ社名を変更

朝日工業グループ企業情報

事業内容 環境アセスメント、環境調査・分析、放射能測定

株式会社 環境科学コーポレーション

本社
 〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-23-5 Daiwa東池袋ビル
 TEL(03)3987-2182 FAX(03)3988-1060

中部事業所
 〒451-0051 愛知県名古屋市西区則武新町4-4-19
 SG名古屋駅ビル
 TEL(052)589-8711 FAX(052)589-8712

関西事業所
 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町2-1 第2中田ビル
 TEL(06)6310-5777 FAX(06)6310-5779

事業内容 砕石砕砂の製造販売、マテリアルリサイクル

株式会社 上武

本社
 〒369-1601 埼玉県秩父郡皆野町金沢3085-1
 TEL(0494)62-1321 FAX(0494)62-1377

事業内容 業務請負、人材派遣

株式会社 ティ・アンド・アイ

本社
 〒367-0301 埼玉県児玉郡神川町渡瀬222
 TEL(0274)52-6411 FAX(0274)52-6422



朝日工業株式会社

〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-23-5 Daiwa東池袋ビル

TEL 03-3987-2161 FAX 03-3987-5326

URL <http://www.asahi-kg.co.jp/> e-mail asahikg@asahi-kg.co.jp



この印刷物は環境に配慮し、森林認証紙と、地産地消・輸送マイルージに配慮したライスインキを使用し水なし印刷方式を採用しています。